

## ごあいさつ

本校のホームページをご覧ください、ありがとうございます。

4月に沖縄県立沖縄盲学校に着任いたしました、新垣（あらかき）ゆかりと申します。前回の勤務(平成11年度～21年度)から15年ぶりの勤務です。盲学校に戻ってきて感じることは、穏やかな雰囲気と視覚障害教育の学びに真摯に向き合う学校の雰囲気は全く変わっていないことにほっとしました。そして、歴史と伝統のある沖縄盲学校で再び勤務できる御縁に感謝して職員と共に視覚障害教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。

本校は、令和6年5月1日で創立103年を迎えます。初代校長となる宮崎県出身の高橋福治先生がはるばる沖縄県に来県し、1921年（大正10年）5月に視覚障害者のため教育をおこなったことが本校の始まりです。これまで、高橋先生のおもいを受け継ぎ、大切にしながら幼児児童生徒、職員、保護者や多くの支援する方々で歴史を積み重ねてきました。令和6年度は、幼稚部2名、小学部10名、中学部5名、高等部28名（普通科11名・専攻科17名）計45名でスタートとなりました。

さて、視覚障害者である幼児児童生徒の学びの場の状況として、国が進めるインクルーシブ教育システムについての理解が進み、小中学校等を選択して学ぶ児童生徒も増えてきました。さらに、沖縄県においては弱視学級の設置も増えている現状もあります。その一方で、全国的な流れではありますが、盲学校を含む、視覚障害者である幼児児童生徒を教育する特別支援学校の在籍数が減少し、本校においても同じような傾向となっています。

このような流れを受け止めながら、本校が果たすべき役割は、二つあると考えています。その一つ目が、盲学校を選んで入学した方々に対しては、本校がこれまで積み上げてきた視覚障害教育を丁寧に取り組むことです。そして、二つ目は、地域の小中学校等で学んでいる方々に対しては、地域で学ぶ際の学習上、生活上の困っていることなどに対して相談・支援の沖縄県唯一の視覚障害教育のセンターとして役割を果たしていきたいと考えています。

また、本校に在籍する幼児児童生徒についてのインクルーシブ教育システム構築における対応としましては、可能な限り交流及び共同学習を推進し、障害のない人と本校幼児児童生徒が共に学ぶ機会の充実を図っていききたいと考えています。この取り組みは、学校だけでなく、保護者や地域等とも連携しながら、自分の住む地域、学校のある地域、そして、社会全体の視覚障害への理解を拡げ、共生社会の形成に向けて取り組んでいきたいと考えます。

今年度も、本校の使命を職員全体で共有しながら、幼児児童生徒を輪の中心に据え、全職員で「おもい」を共有し、取り組んでまいります。皆様の温かい御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

令和6年4月1日

沖縄県立沖縄盲学校 新垣 ゆかり

